浪花みやげ

ヲ 6
1538
1

浪華志まん

儒家　中井七郎　持九鴻池書籍　金相　北濱一丁目　木津

書家　篠崎長門　西智三井郎左門　蕪市　道修町

劍鏡觀相　岩永近江　吹屋佳友吉良　道幕　伏見町

國學　鈴木重胤　賣茶吉野五運　魚市　雜魚場

和歌　熊谷直好　寒天大根屋右門　川魚市　京　橋

連歌　岡　延宗　菓子虎屋伊織　梨市　長　堀

俳諧　八千房　清流東臺　近江　鰯市　永代濱

狂歌　鶴，家　麺類砂　場　蠟市　うなぎ

狂句　素行堂　饅鑢鳥屋久兵ヱ　松魚　鰹　座

囲合　竹芽園　料理福屋又兵ヱ　ちどる　四ツ　橋

門ヲ 6

醫　平澤白翁　廣瀬藤吉　砂糖問屋　堺　筋

花道　未生齋筆師保　左　陶器　瓶物町

痘科　池田瑞仙　辻龍　堀井仙助　夜舟　淀　川

産科　賀川秀哲　拳　義　浪　蘭鬼　傳法川

眼科　土生玄益　俄　南　玉　鯉　掵　小和田

外料　各務相一　人形吉田兵吉　番舟　安治川

藏學　諸方洪菴　澤理　竹水組太夫　丁哉　今　宮

易學　平澤白翁　俳枝　中村慶子　祭礼　天滿ダシ

本道　齋藤方策　宿屋平　佐　書物　天滿市側

四柱考　中富庄司　楊屋吉田屋　顔世　千打連

筭術　武田篤之進　蕪　蔡七月廿四日　芝居道　頓堀

天文　間部藤衛　画家　林徹山　挑林城　南　安治川

蛇術　阪本氏　詩家　廣瀬謙吉　米相　堂鳴濱

かみのらびんがうん せりあい

○うものらの世界

きんぴんがうんのゆうこうぶんぞ
ぶきぞうぜんかーてうのつーてもう
ひすとのぶらいユいとーとこんぞよ
あひもおさけもあんぜうぐんぞうこう
ためるいとのようくおおあうぶーや
たることとちりてきすさんくとこが
ふくーじんのむーえーしやこへ
人いいのらうりのさうのーやどこへ
あまびうふひらとどるるらんやい
ゆうわんぶるーのくせこわん
いーふぉ　ゆうこあいーさうるぞよ
いふとうんとりつてひめんぐんい
めんーじとあぶのよよふ神はたこけ
わさこあのおさこそうこらくとこいらの
ゆきらーとゆこうくいるたのーこいら
いうんてくーいるいぞふうのとーまんやい
こようわくーじてうこいとんふくーやこそよ
どうういいろとこけぶんしぶらーこう
らいーゆうのこくとまーぬいらやい

○びんがうんのゆうぶ

諸商賣物盡

扇屋
傘屋
蠟燭屋
薪屋
煙草屋
風呂屋
笠屋
茶屋
酒屋
炭屋
魚屋
酒屋
下駄屋
桃燈屋
下女
酒屋
紙屋
提灯屋
八百屋
鍋屋
本戸

筆屋
墨屋
硯屋
硯箱屋
硯蓋屋
大工
西屋
賣茶
白い
役者

正ぐさ附

亂酒香わざ番付

大関 小間言 大安賣

一色と酒て夜とわ白粉びん附
一面のでるまも待るよざんざし
一水よおとりぢらゆうじ香
一あ屋業ことろげ屋のくぢ
一うちのあへつまとはだん花
一あ花ゆうごの花のたも
一さてもうゆいそうけいふん
一かまのとをやけおりろ
一ちんぐんの神あ〜ひこ
一そ〜たて上戸のさぶ〜
一おひられのたゆあおぐ
一わともさ花ちうん 引
一右ちきあ〜〜けて夜れあ〜〜あ来九
一りんも初日の二日ちひのあふ〜〜

女房よもあ〜〜ゆえゆひ
一谷んて仕ゆふていか帯
一碑うさあていた〜 掃
一徒仕ゆううかうぐん
一非と利ゆ日う〜〜ぬ筋ち
一碑つぶきちく眉刷毛
一風雑も敷孫れあぐ〜
一ぐんく身のまれゆうじ
一つけ家中もゆ〜きぬ糸
一金うし〜も 唐そう
一傷金の唱ぬ日ぐ〜

そそ〜〜内とを尾紙
碑日の撫刑大安ゆう仕の
ばつ〜このそへあいうしい

本家

出入指留筋足上九町
御目印のまん取上ア

倉井有竹屋志女助

出店

野良長町 仕事屋仙助
明暮町 懐屋傳八
日裁町 一日屋寝太郎

年中町 遊屋藏四郎
酔覚丁 妻覽屋紋藏
外と取所 毒所産ル

右之和ぬ〜山屋小屋井先んあ〜ほの多ふ〜
序元のこ〜くたるうよ年信金ハきか長筆
めけ屋ふ和ゆ〜したおそ〜ぐ元ま〜での思ざ
乗ハ拉天〜ゆ〜ま著水砂神夜弱つゆる金
とて余ハの和ハつらゆ代人ゆハさこ〜ちあ
ヨきをむくのそそのあのどそ和ふ香ろ
ますゆうと今手でのさびおとものこあのうる
うくあ業よハとつけ本あとりくぬぐ業の
出長扇ちらハ〜ゆ山んじゆう業年もくわう

別して御ゆりゆ〜ふ
ゆ〜ふ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜
ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

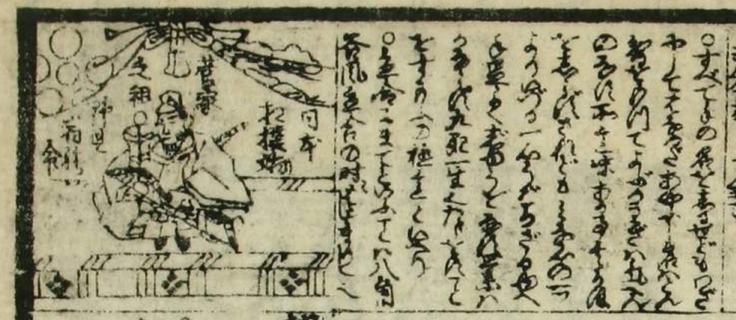
○四十八手之古法

反

捻

投

掛



三ケ津大相撲故實由來書

夫相撲のもとは天照太神の御時よりはじまり朝倉七代の帝仁天王の御宇ふすまの長命ひさしくまさしき地法さざらの神能幸中ちかの良もりをもて近江國志賀の郡相撲と申者をこれ

新撰言葉鳥獣見立

くびしめ　武士は　位高の　位低か　侍は　いくさの　言名の　移変の　大なる

猫とり　ちとり　にとり　蒙とり　鼠とり　犬とり　分とり　鳥とり　猿とり

せいろう　いろの　ひすこ　姫か　おやの　ものふの　豆名か　あるは

鶯とり　ちとり　まとり　嫁とり　鮮とり　乳とり　関とり　頭とり　博とり

数外は　やうちの　位置和で　祥宗の　うちうち　ごう居の　すめ　かしの　ひあって

毒とり　矢とり　笠とり　さとり　かいとり　おとり　ものとり　おとり　ねとり

裏の　むし　たばこの　松の　虎の　扶　福門の　よだいは　くもの　わらの　そうじて　十九文

大和の　ス合の　よい　鍋つき　のこやい　うぐいす　ちこよは　一夜の　ちいらいの　天下茶屋　戦国の　よせよあり　やすめは

百しゃうの　きん玉の　せいさの　山絆の　かしゑ　ものと　ものと　ものと　ものと　ものと

犯とり　小使とり　クけとり　ムドとり　かとり　ぜんとり　うつとり　ぞつとり　せとり　とつとり　大とり

ちとり　とつとり　うすとり　て門とり　おいとり　ちとり　やとり　糸とり　及とり　切とり　ミやり　ひとり

紙を矢　孔雀　丸の　風凰　の　鶴　川に　漢の　鳩

南地亭戯作

大新たん

中中めうしゅ

大関　まつうらくのひとまく
うひうまうぶする

関脇　まつうらくの後見同やの五代
いけたまかつひげ作る

小結　まつうらくの後見ひのきまた
まてとあーとあるとる

前頭　一人ぢうまつうらくとあつう
くまつうぶらのたてさふ

同　まちのあつうらくハ
とくあやげまちまる

同　おちつまるのまきりやくハ
よんぢよまうとおうぬ

同　つまくあ中のたまて大形のよ
ちんくまちあとつとあく

同　つまくあ中のかまでやうきて
ゆくぶたんぢりまあく

同　茶やの内茶いまく
まつうくせぬ

同　ゆやまぶうぢうつよの茶て
ちつぶうんぢまうまんぢ

同　ちやまちのまちく人作曽
かいあるまくあつうくく

同　まちのむまちまちのさ
まつひまあーまる

同　おまぶれおくまあのううまで
ままてまるまとまとまま

同　丁ゆまちひのまやうまて
ゆまままんぢあーんぢむ

同　ぶむまちやちまち代の茶や
かうまだんぢまぶ

大関　みぢうまつてうづだちでまま
ぢーひつくまま曲まぢてある

関脇　げいまのまいやま
ぢまさんといつます

小結　ままうやのま代
けんのまぢんまる

前頭　中ゆまる円茶くまつうく茶
引ふまのまきまゆまま

同　ゆへんふちぢんやのちくハ
ぢまつうげまふけまま

同　ゆーやのまちまゆまやまま
くまーまぢんつうまる

同　やまの茶まくくハ
おまちまゆまく

同　まちまぢんゆくかまぢま
ぢりちまちまちまま

同　茶やのむまゆハ
あーんまくんまやまる

同　まつけ五二月ぶうちま
からゆうぢくまぢう

同　まの小づうまいかまの
くまぢまんぢてある

同　中まんのまやまきてい茶ま
いーゆうげつりぢいぬ

同　少人のぢんやまが
ままうまんまびまく

同　ぶけんまちのうまんぢまの
ゆーまーまぢげんゆまる

同　ゆーまきうれ　人の
ままるまつまるまぢまる

和田孝作作

恵び物語

繁作

鯉ふぢうらのそうこうよりきさうとりこわたくこまる

ちきのかたぎうしらにんのちゃけとうこまんこせス
物こやおまくさんまのたそごとひこあふつまこ
井の日ようごふこしさたちんのさごきやこさせが
んごあごふちうすひつくたこやとびのうととび
たうこごふおりくごもおくのかこいおりちふこらへ
ひこびのかこらひたるごうたぎこからひごもひひハ
さうここあらひうまこのやうふやうこそたごううごと
日とうしいこごらひいナすのの夜がなるうめき
ちんがたうれわうこごもらひうんごるおのしうとふびん
たくハ月とたくすせいちごたうれ伊勢ちびひのうう
よきはあんこうのちるくこ二人のちたちのうこ
ふううとるめいこひちるくきき月りとうげこく
よきはごうのたごひにどうごそあいなあう
がとうとやふうけれんごらこ中こうきたここを
うこ月つこあうとのかごうのこはやうくる
さうこの竜のちう月ごうかなうまこたうを
うこうて あこふこごこうこうくまごんん
あこくはごだたふこ

青林堂草紙屋

四傳口說 まじない虎之巻

ひせん
内ぢは
薬草の名びとせんと
月ひてよし

ちれ病は
山菅とせんどと月あべし

ちれ病は
同菅をすりて付てよし

歯ぐき
たまる
薬草のうやと大麦二文程
月ひてよし

まびる
月ひて米とあらろ米をそ
のちひてよし

海
の毒
月ひだらとたのしく
入まして出で麁

ねぶと
大豆の柿ぶ一のうとなる
あらうしの絹こうをおくと
どしらしのひぶ木ゆく
かく麁しあうあり

目ぐろ
月ひ三つ五ろう舟へ伊勢
と出きあまてのむべし

疱瘡
の時
薬草のところときざまて
せんじあひてよし

疱瘡
かろせ
卯月八月の花と立て天に
きせいとうける麁し

遠ひ
の
月ひ五月の菖蒲と蔵て移る
仍てたのめいぶへ入てもはし

蚤の
ふせ
月ひ蔵の穴へ日蓮さまふれた
せんぶんのを入てせんど法ぶ

蚤入ぬ
月ひつめまて俵方とは麁を
出てめいぶ麁へ麁し

頭痛は
二月十二月のあのうめ麁たの
ネどうひるとと麁へぐしてよし

あたま
の絲
ぶんのぶとうふ麁と名とうき
むとんまて火麁へ掛りゆべし

目へ豆の
ごときは
芋ぐしまてふく麁し
きわうあり

歯痛は
おすぶんと二文ういがのを
まうて月へあぶる麁し

はむしは
九月の月ぶんの豆ぐと芋月
ぶんの豆の下まてたくべし

耳
入らぬは
三麁まんまへ卯月八月のあ
麁とうのあんぶうへうてよし

さうひは
耳の垢とかしのむ麁し

目へ物の
入る
わう麁しと麁まて三麁あぶ
祓ずこあきしてふくべし

らふそく
あがる
下へ塩をぬる麁し

やが用
文ぶせんまてやふとふきこぼ
ぶ法ぶへそうる麁し

どく蟲の
ひと高
手ぶまあるぬと伝ぶうくも
うりむけましてそこし

あやとり
口中へぬびまて賊の字を井て
うきのをとむ麁し

たが血
紙へ色びまて賊の字をとうき
えをとうむ麁し

ふとり
ふとりは
ひらふ色びまて賊の字中をそ
うくしふ身のをへうのあり

見立相撲

ゆうでもかいおけ方

大関　ぢごくおくらく

関脇　けいせんのまこと

小結　ぬこあり　のたいこ

前頭　ちーんのむね

前頭　金　ぎ　ん

前頭　おかねで金をかりる人

前頭　ゆうまいと人だま

前頭　元年　とよこ

前頭　兄弟げんかのあとん

前頭　こうこうのうとよん　女

前頭　金　拍　乃　譽　者

前頭　ふんやかあとの時で乃

前頭　有　佛法　ありこと人

前頭　文字のようこう紀　たりしゃ　お人

前頭　出用　紙　ふんまの家　お

前頭　かまいうまこと

前頭　ものぐん人

前頭　神　乃　者　ちゅうーこと人

ゆうでもかいおけ方

大関　せりきのこーひ

関脇　ひつゆこのらんぷ

小結　小心ものあとこけがん

前頭　高人のかけ弥

前頭　げいあとと入り

前頭　ぶ　玉　師　乃　た　弥

前頭　海のあひとかあう

前頭　女形役者のらんぷ

前頭　家道のおゆあこと人

前頭　のこれきんだま

前頭　かとつまこと家の人

前頭　浅家乃せ活人

前頭　寺　の　大　こく

前頭　六十ものこうあ人

前頭　右乃ものはやだーあ

前頭　せんだいせに

前頭　さうまのまこと名れ　ことつけてやる人

新板もりづくし見立相撲

今井秀九作

勢揃

大関 平あん 須磨こもり
関脇 ぐりこん 友もり
小結 さつまん あつもり
前頭 うどんん 二八もり
前頭 おいらん やみもり
前頭 てらん 坊もり
前頭 ふるまん 多もり
前頭 しゃん やまもり
前頭 ひぜんん うみもり
前頭 ほんん ほしもり
前頭 つるん すともり
前頭 かさん つぐもり
前頭 あびん ふもり
前頭 どじょん もりもり
前頭 ねん 浴もり
前頭 さんきん くもり
前頭 まるまる 大もり
前頭 さらくん ごもり
前頭 ひくん もり
前頭 ぶまきん かもつもり
前頭 ちんどん 番つもり
行司 めいぶん 一もり
行司 さういん ちもり

番付

大関 けんどん きびもり
関脇 ほとくん 清もり
小結 ゆうさん つもり
前頭 そばん あつもり
前頭 ちゃやん 家もり
前頭 ぶたん 宮もり
前頭 いっぷん 業もり
前頭 おしん みこもり
前頭 かっぱん あのもり
前頭 まおい 形もり
前頭 てんぐん さけもり
前頭 おけん だくもり
前頭 りん やもり
前頭 やーん てつもり
前頭 ゆのやま のせこもり
前頭 ぶの浦 こんもり
前頭 つちゃん すかもり
前頭 きびさん てつもり
前頭 ねびかん 月つもり
前頭 うど 子もり
横綱 ばん 正面もり
横綱 かっぷん かげもり

書林兼草紙屋

かぞへ歌の海

名人のそう医ようそ　ちゑ日ようれき
びんぼのせうふかぜ　ふたまる
川ぐちのゆるぎ　すれどもる
ざこうの小ぐん　ぬきもTど
ぎゑまんのさいく　ようのさ
お地のそこけ　石と書○る
十日戒の日ろう　方ぐうふて
ふ仕事さまね　たかびひくい
清蔵のだて　徳利の白ざけ
うんてき上戸　岩川のすのふ
かさ文のりん　ひるまひ
岩のさくら　こうく
町ろくもんじゆう　大と高ーす
犬　入　海　沖のうへ
天満の市だ　まへぬとろふ
ゆぎのさんくよ　せんざんどう
せんざんどう　ぶすもれさ
そこねけろご　ぶさようかてと
さんりひのれに　ニヤア　ワン
ぶけとトいね　かんりんで
慶和のと公方　ゴザイ
たひのめつくへ　入ふくふて
えもれしどね　ところ
生ぶ彩ぐ

大年ゆく年ぶ　義士くとる
角ぐのぶ行とく　九ぐん目で
加古川本蔵　ゆうれる
しさか遠所ぶ　うどふ
かの九を夫　石いきる
川ぐちのみどる　ちの身代り
斧　宝九郎
犬のふく　ぴりくく
呼垂のうるは　ぬーるぎゑ
さんーゆーふ　ひんぐるふ
る国平ちら　ぬ仕合
義ぶこのどう　ぬ同りと
庵人のぶ法ゆ　しそゆる
ちり平のさい　ぶくんふ
ぶ国ぐくノは弟　ちみけべぜふ
大ゆきの日　ふる
第ろんさみ　ぶ
るのびゆうき　ぶ
じゆうど宗　ちのぐ
うつむくいる　ぶ
おぞぶうす　ふ
ふるんふ　ぶ
ぶ国ぐうう　ぶ
だるる大坪　ぶ
後義のさいく　同ねうこう
ふる義ぶまいも　ろーひ
ひ絲の水どうふ　宮舟で
かるうやどうしん　こりり
中のこいゆうと　世ぞねうそ
犬ふうこ　さんのよで生姜

そこかまい

○大酒大食ハ　脾とそこなふ
○色欲淫乱ハ　腎とそこなふ
○喧嘩口論ハ　身とそこなふ
○家業怠惰ハ　家とそこなふ
○金銀放埒ハ　資とそこなふ
○我人不和ハ　交とそこなふ

身体髪膚をそこなはざるハ孝の始め身をたて
道を行ひて名をそこなはざるハ孝の終りとなる
父母に毒病でうけ〳〵幸心と
ゆぶ〳〵じとせば何もそこなひ

源花持九長者鑑

勸進元 三井元之助

差添人 今 天王寺屋五兵衛

東之方

西之方

行司 吉田荘蔵世話人 恵比寿屋善兵衛

取 鹿屋伊織

南大坂 三井呉服店

北大坂 呉服店

楠正成一紙家訓 前編

一極らくを祈ずんよう地
おくをつくるか
一釜で求んよう情をいと
一立身を思うんよう悪
をまたるか
一上ゑ偏ひ下をい申むる
一足るるを知ておよぶ
るをおりよか
一恥を安んじて死をを
おそるるなるを
一まづら立せんよう氣ゑ
をむくか
一身のためゑ死をを
なしよか
一我が命ハ主のりの忍び
私ゑをのるか

一礼をくして人の非を
とがむるか
一己が分をよくしを
一身を働けバ食甘し
一楽をこのめバ困多し
一孫尚るのゑ実ゑし
一酒ハ呑ものまるか
一為恐ハるるも代りとるか
一人ハ虚云世ハ云乃
一得なきバ一失なり
一拙おるゑ肝要をまるべし
一若ハ家くなハかと
一食拙ハこら一たの
一原ハ風雨をふせんため
拙ハ紀ハよりあるかゑ主
一内の言ハ外へ出すにつく

楠正成紙家訓

後編

一人ゑしんぼうして人を損らんとのをおもひなし

一只今日をくらしんとのみを思へ万物一体の理をさらざる由へ万病まじ

一金銀たんとう傷をるふ

一石ハ業なる徳よりそ永くをとるなり

一歯ハ強きとぶりてをく

おつる

一竹木ハ天性を保る由へ

をとをくをよ花さく

一鳥ハ住食をたくまへね由へ飛行自在之

一人ハ名利ふけるまて

一生くむ

一ゑてる事を悔ふ

一矢鉄炮ハ高るぶ上る

一刀ハきるぶ重宝

一学文ハ理を出るため

一惜意のもれハ永く金之

一人のをとをとる武士を出れ

一傷ハ業捷を出るみて

世をのを次みをべし

一俗ハ家職を出るみて

後生を次みをべし

一有為の法ハ夢幻なり

一生なるものハ必ずめつ

一只一心の事をおそれよ

一若も苟をれば行きこ

以上

正五位河内守橘朝臣

楠正成

倹約 極楽社近道

一極楽東門迄十里(ちょう)六(ろく)町(ちょう)(但し一町六十間宇(ろくじゅうけんう)日本一世六十二里(にじゅうり)割合(わりあい)せ) 道法(どうほう)二百八十方(にはちじゅうかた)歩(ぶ)あり 老人小児女おのおのよりて海日数合八十方歩(ろうにんしょうにおんなおのおのよりてかいにちすうがっぱちじゅうかたぶ)

一日に代銭合三千六百四十八歩(いちにちにだいせんがっさんせんろっぴゃくしじゅうはちぶ)八千三百世三万三千三百六十二文(はちせんさんびゃくよさんまんさんせんさんびゃくろくじゅうにもん)

一上戸百日酒十二文(じょうこひゃくにちさけじゅうにもん)下戸百日酒十二文(げこひゃくにちさけじゅうにもん)代銭合六千三百八十歩(だいせんがっろくせんさんびゃくはちじゅうぶ)

○右道中入用合(みぎどうちゅうにゅうようあい)

一五万九千九百九十八歩(ごまんきゅうせんきゅうひゃくきゅうじゅうはちぶ)八千三百世三万三千三百三十二貫(はちせんさんびゃくよさんまんさんせんさんびゃくさんじゅうにかん)六十二文(ろくじゅうにもん)あり

金(きん)直(ね)二百三十二歩(にひゃくさんじゅうにぶ)六十八百九十三万九千三百九十三両二分(ろくじゅうはちひゃくくせんまんくせんさんびゃくくじゅうさんりょうにぶ)七百七十二文(しちひゃくしじゅうにもん)

金(きん)子(ね)十両箱(じゅうりょうばこ)入(いり)十二歩六千百三十六万八千九百四十箱(じゅうにぶろくせんひゃくさんじゅうろくまんはちせんきゅうひゃくよじゅうはこ)

○右(みぎ)の通(とおり)極楽東門(ごくらくとうもん)より道中(どうちゅう)食用(しょくよう)迄(まで)可(べき)往事(おうじ)要用(ようよう)なる者(もの)内(うち)倹約(けんやく)して金(きん)をためんかべし迄(まで)極楽(ごくらく)へ参(まい)らせし人数(にんず)一人(いちにん)も漏(もれ)なく成(なり)こそ

むかし 神武天皇(じんむてんのう)のやうやく三十余年(さんじゅうよねん)之(の)仏法(ぶっぽう)ひろまりてよろづ千三百余年(せんさんびゃくよねん)

然(しかる)に素倹約(そけんやく)小(しょう)にして二義(にぎ)出来(しゅつらい)孝(こう)の道(みち)を尊(とうと)ぶ事(こと)

さへすれば右(みぎ)の金(きん)子(ね)調達(ちょうたつ)出来(しゅつらい)なるべし

理(ことわり)非(ひ)道(どう)に欲(よく)をうゑ不(ふ)義(ぎ)にてなるべし

極楽(ごくらく)へ通(とおり)用(よう)せば正直(しょうじき)にして家内(かない)和合(わごう)し

分(ぶん)相(そう)応(おう)に身(み)を慎(つつしん)で世(よ)を安(やす)く楽(たのしむ)べしこそ

こそ世(よ)々(よ)の極楽(ごくらく)なる所(ところ)なり

極楽(ごくらく)を詰(つめ)て南(みなみ)へ行(いく)と

西(にし)へ行(いく)べしこそ

おろかのなり

新板

當世人情穴さぐり

いふうけてあるくふまぢん
しやおまぐけとりく　糸ノ人
さけさんのまーておくと　下ノ紙
ゆくくさおついしゆうい
ともだちのすらんからーて　小恩ル
いろことしのきふあけてある
つひかゆうけさといふさあ　剛力丸
しと仕ことのおい
らふあめもらびゆくくに　有ると
をさんへうあげさげる
こあやとさうやのうさ　職人
ひそうさきふさきまつもる
ちーたのゆうおうーて　相尚
いのうゆうんこうこの　乳母
ちーさきでるこわれてはれ
てうもつきわるいてひる
いろおとこのれからでげいとと　ず通
あいーゆうどわくけてうる
ちゆくいふてうるとつけさ　位拍
ゆうこ移んあのとゆん
おおあのーゆうとさあひと　嘉流
あのけてさてひくうーてある　髮ル
わさあいとせのけばさの
つゆゆうしつうふていわる
女帝ふゆきまる絲あくく　俳諧
あさふあかのけていぬる
富のふさうふていつーんふ　和漢人
こんひくあへどさ　まちする
ア女のあまへよさひあ　張
あくあうつてこくと移る
あてあかのうふてせけさ　やもめ
ますへふあるこうくまあるく
ちあけがうおこりとつまく
てくおてくーてあまくまる　見形
見さくくあさうゆうはあんと　てうけ
いふうかでおまりまる
でけさんのあへまとゆて　あんま
大きふそちーめらるく
移んひゆく移んゆ　あさ
どといふてくくーて　金物

あちあさ紙で泡有うふて
むーゆうふんをあまふ　大坂ノ人
かーさありてくるとなのでく　問答
こさうきせんのゆといふ
けくくんけとくうのんーて　牽あ
きーふさこーゆう移ひいまる
びゆううされでとひもせね　医者
よさくくどをあうくくとまる
まいまあうびさうたをあけて　尼藻
くくくんけふあるいてゆる
せんせのくといそれて張て　儒者
ゆもあもあんーゆうもでさぬ
ゆくーて張おのうーぬ　神乃若
うあいういさんあくーぬ
かーとくさらふーてもりつさの　戯男
ゆすああとたて金ーてゆる
ありあのうとあのふてゆくく　俳吾
うふすーてくーいゆーまる
のんびまくあるくくあのく　女帝
ゆくくおこしとこるる
ひくうんのあうくくと　後家
うこざくひきあーてあるく
あちあくさう紙とううーて　牽頭
きくくさうくんでんせあるく
わざあれかあふくうあされ　車法
せけーてくまちくたのんである
きくくとうーれのくひくあて
ああくうらくきくんくくん　寿の男
張いまうくくーれて張て
うんゆくくがーして張る　粗仁分
ひでのあのくくゆひくてざくふ
あくれあくのかくくくく　女子流
そくうくくひゆけてくくうに
あーめらまて張る
せういくういくくうあーくくと
うかでかくくあつてあるく
ゆくーゆのくかせうゆく　そめき
ひくうらんてくうくうて張る　金備
移んひゆく移んゆ　むすめ
どといふてくくーて張る　寅之人
こ百六十四　たい屋ん
らくといくくくくく

おそせいいろは物の番附

東ノ方

大関　関脇　小結　前頭

行司

西ノ方

大関　関脇　小結　前頭

頭取

うんとれがんの見立

東之方

大関 いけものうかぎきこのとひさしうかぐめてゐるひと

関脇 せんちむしとふ屋んでおうそたのしんでゐるひと

小結 せんさにうけれりういてぜんかいてゐるひと

前頭 あさわしとかうちやでたまふてもくやもめ

前頭 あをまれてきてゐるぐたりふてゐるひと

前頭 うとうのとたしのうへうくかぐめて居るひと

前頭 ゐうたとゐるもちくすふかうぐかしそゐるひと

前頭 伸ゐうさちて志んゆうてまゐいつゐるひと

前頭 げいとこのとかうふくたうさかしてからふひと

行司 女郎のむしん笑おいてきいてやるひと

世話人 ちゐぐうちうふかくちまぐうふてゐちうにてゐる

頭取 すかさちふやちふ太さかのぐちとしてゐるひと

西之方

大関 ちうぬんじ芝居の浮世うにてせりあふて居るひと

関脇 ふうやへいて女湯の方とはてうぐれかぐしてゐるひと

小結 どちらくふどゐすとゐする山上のせんだち

前頭 おゐゐかちふさどゆうとかつこやちくちゐるひと

前頭 芝居の初日はかゐてよをふちかうこちとやすむひと

前頭 ゐへうゐいうけちゆまひまぐきうめて居るひと

前頭 めぐちのいるぢぶんうち浮るうとかちふおやぢ

前頭 ぢはうやゐ子ちちくふくてやちちふきふ志ゐくひと

前頭 よかうとやまうふてまひうくゐ祢てゐるちゆく

行司 おゐゐとうう女房のやうかうかくてつまとゐくひと

世話人 はずちくずの女子についてゐるいてまちうちちすひと

差添 ゐはの芝ちこくくゐちとゐそ百ぐえんちうとひくひと

のみ升よい升 酒問答升づく

酒ずみ 狂哥

世の中お辛さうのむ酒あるとべ
のんでくすが辛い升のうく

極楽へまゐる黄金こがねなれど
さけあるうち酒いろく五ふ二升

酒風のすはとも酒のいとひきく
さけとばくいそぎ三升

かうらうとべ清酒するあうあふ酒
酒どうのはくるなら七升

わい掛へよ元そうさむさ酒と
ひとりすけるもの升ありろう

酒のわり酒のゆふべや雪のくま
のんでくすをおり六升

家のおこと弟へてのむさけあるべ
七升までのうんどうもあ

酒酒日本の白がやうな酒のんで
すきの世までも名とバ八升

酒のんでいくんびすうずきさんやう
ふうふとふん升とり

長命の酒の酒ごもるさけあれば
酒ごとのあせろんきり升

酒ずくひ 狂哥

長命の業なるう紀く糸どる
のまびふくすくるき升

春ときこへはは辛く破つぎこ
若くしたそのてっぺん二升

酒のんでやうと宣嘉の掛はよ
おたのをあくべおんどき三升

若い加の酒ものまびそあくべ
つくしくでも升あるあり

酒ものを身と拍くづすくあくだ
ねろんくそれ巻もの升ぞ

すけませふお会ひこもとのこるし
酒いはあること三ろく六升

家人も色こし酒こふくずおまべ
とまと七升のうんどうのうく

呑るくー宣嘉にろんあびうこと
すれば熱名せよも八升

酒のんでいくんびすうずきさんやう
ふうふとふん升とり

長命の酒の酒ごもるさけあれば
酒のまとこいくも名のくさけるの
のまろくんでせろんきり升

淨瑠璃誓古穴捜伊呂波歌

い いけもとぬっぷげのまるぬんめさ
にといっらーてでひきでびくろう
ゑーひふおぶへもせぬふそやびてん
あーふこだけとれでくるあ

ろ ろんぐんでもどるこらのく
あびくろうるまつころぬな
ぐくうるんてきていあーて

は はなたけてりんくろまつころぬな
あびくろうるまてきうすあうそや

に にしのめもひびしのとるあびーて
人のうこるをせーらこーふあ
やあーまてきこてことをきまつびず
げいのじゅんでそあーれくぐ

ほ ほうこのくせけいとるせずふろうずれ
せるるきーこびおそふでくる

へ へつんのようのと神んでい
ところでいろんふまーまこきろうろ
てんぐうそーてくひあげする

と とりんくのおとるるくでもせぬえ
えとをりこせてむつうーいうお

ち ちうんでもうこびけるゆうぬそのの
ゆうびうろいのうんつけぬなよあの
ぬつこーてたを夫のゆうふこそうけて
くるるゆへはいあんびんるーー
ろふのあい大きかでちびたこきれて
ふをとるるゆーういとこくゆう

り りあーまるせびおやへもせぬるけいと
あとでおのまるーびいこきこーーて
こーけるあいふいうのゆうかずやりろう
あびてとうけこうへとをーーて
くずもあいずおやへこよいるうとと
ふるうのとこきくろうにしるゆーーて

ぬ ぬーーー

次第不同

聞覚一口浄瑠璃勧進

大関
関脇
小結
前頭
前頭
前頭
前頭

そりゃ国へまさかの傾城横えん
国のかとこおなぐさ江
江戸長さんやくふぐへ
このかたこ一重ぐうちがあの
ちゃ娘ぐれらりよか
みちへかりてふ丸太茶坂
大市ちりもふかへうこの
首みるふくハ丸王丸

前頭
前頭
前頭
前頭
前頭
前頭
前頭
前頭

行司

かんどんの移り時さんかまぐの
名ゆ時代のこあるとあ
ゆ年しあるらうの丸

大関
関脇
小結
前頭
前頭
前頭
前頭
前頭

軍のかぐ出かくれと
勧平さんハ三十ふ
六角堂へお百度も
名ゆの国ぐの上ゆで
めいふ北ゆうみかこゆう
岸ぐの里へのふ一里
道理で抗のうあると
仕おこのゆかやぐ家ゆ原

前頭

めとんおくつて時さ国ゆ
将山の弓ハ人剣の清流
京のえ京ずやまち
それでしゆくまりかいや
ひゆうの流川ゆ武ゆば
あゆくの女中ゆあつて
ひと年ゆ流のそるゆ
去年の秋のひつひみ
そりゃとゆかいさとつて
らんゆ夜りふ時ゆさふ
ゆれゆ見の京市ゆやゆへ
秩父ゆあのふゆ

頭取

一合とつてきひとの
ゆ年ゆの里の光り抗とり火と
行燈流のあひ抗ゆ

世話人

一字千金二千金
うゆんいゆやふて
こゆやふゆどゆおふさん
出家ゆひゆ法ゆ

世話人

えかのさろうれ教ゆう
ゆ国ハ下抗ゆんとこれ
せゆ抗京ゆんのふりこさて
たゆりけゆやゆくだりあや
いゆうちりかゆ法ゆ
うゆくゆれつゆるゆの
ゆとハこハ茶やゆ柳やゆ
ゆんりふやゆけゆ
ゆりゆ弓ゆの文
ゆゆゆ抗ゆ西ゆ私ゆ
抗川ゆ抗ひゆうへと

勧進元
金剛ちえんあんだ
差添人
悔おほたるさいやひ

世話人

物ゆ場ゆ悔ゆ小ゆ抗
おつゆう外ゆお抗ゆう
ゆさんの名ゆおゆうとゆ
物ゆの文ゆ京ゆどゆりとゆ
ゆ色ゆ丹ゆん陽

大日本國構見立相撲

次第不同

御免

行司

大関　岡崎矢柳橋
関脇　福井甲斐守橋
小結　赤穂浪士橋
前頭　二条城内大橋
前頭　姫路城橋
前頭　江戸永代橋
前頭　同新大橋
前頭　奥州名取川橋
前頭　江戸両国橋
前頭　駿河富士山龍橋

大関　岩国錦帯橋
関脇　願田唐橋
小結　大阪天満橋
前頭　城州淀大橋
前頭　筑前赤間橋
前頭　大阪天満橋
前頭　同淀橋
前頭　伏見豊後橋
前頭　堺大和橋
前頭　城州宇治橋

次第不同

御免

行司

大内の出船橋

三橋の山橋

大阪天満橋

勧進元　夫の浮橋

差添人　諸の橋の橋

中山道橋	九十里	関中相模橋	八十里
東海道橋	七十里	加賀金沢橋	七十里
奥州白川橋	七十里	奥州宮城橋	七十里
奥州名取川橋	七十里	奥州仙台橋	七十里
奥州信夫橋	七十里	奥州福島橋	七十里
奥州白石橋	七十里	奥州仙台橋	七十里
奥州名取川橋	七十里	奥州名取川橋	七十里
奥州名取川橋	七十里	奥州名取川橋	七十里
奥州名取川橋	七十里	奥州名取川橋	七十里
奥州名取川橋	七十里	奥州名取川橋	七十里

通話方　頭取

京五条橋	七十里	京東海道橋	七十里
河内国橋	七十里	伊勢参宮橋	七十里
京三条橋	七十里	大阪京橋	七十里
同大江橋	七十里	摂津尼崎橋	七十里
大阪淀橋	七十里	同堺橋	七十里
同堺橋	七十里	同堺橋	七十里
同堺橋	七十里	同堺橋	七十里
同堺橋	七十里	同堺橋	七十里
同堺橋	七十里	同堺橋	七十里
同堺橋	七十里	同堺橋	七十里

世話方　頭取

十干十二支図

番茶煎茶番付

東方之部

大関　関脇　小結　前頭

奉三宇博江瑞久寄家　上上　上上　上上　上上　上上　上上　上上　上上　上上　上上

長谷川　多戸　良　上上

書院茶　煎茶　抹茶　粉茶　玉露　上上

前頭　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同

西方之部

大関　関脇　小結　前頭

羽二重　重　中　上　上　上　上　上　上　上　上　上　上　上　上　上　上

月桂　月形　野幾　鳥羽

紙箒　草紙　絹布　黄布　酒瓶　細工　玉細工

前頭　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同　同

行司　木村庄之助

世話人　木村玉之助

呼出　木村玉之助

東頭　金沢　上上

大阪　川口　大関

同　堂嶋　米市

江戸道中名所名物見立鑑

東海道

大関　富士の山
関脇　大井川
小結　三河　岡崎
前頭　つの川　七里渡
前頭　さかべ　宮宿
前頭　大いそ　箱根山
前頭　小田原　石がき
前頭　くまがや　うらら
前頭　とうの　やこう
前頭　鳴海　鈴鹿

中仙道

大関　ゑのこ　碓氷
関脇　あさま　浅間山
小結　日は　木曾の桟
前頭　上ぢ　鳴海
前頭　ほり　稲荷
前頭　うす　碓井
前頭　あさ　浅間
前頭　さそ　鎌倉
前頭　あの　上田島

行司

いせ　二見の浦
世話　善光寺
差添　東海道
中仙道

勧進元

金のちりめん
西宮家根
田ごとの月
人八けい

東海道

大関　ちら　阿のぶりん
関脇　平つか　そうのこと
小結　川ぶち　やうと
前頭　くま川　浦の原
前頭　ふじ　うばがいけ
前頭　宍ぶち　らくけ
前頭　おこと　あこと川
前頭　おりく　うりの山
前頭　あさ　そびけ
前頭　せき　大ぢ
前頭　くらう　むぐ
前頭　とうや　たのら

大関　ちう　鉢ヶ天王
関脇　ぜん　ぜんの寺
小結　あた　神明宮
前頭　ぜん　さこ山
前頭　ちく　原の宿
前頭　ちく　秋葉山
前頭　ちく　国ぶ
前頭　さく　鎌倉八幡
前頭　こう　熱田社

中仙道

大関　ゑの　流山
関脇　甲ぶ　白山
小結　ゆの　沢
前頭　ぜん　善光寺
前頭　ぜん　善光寺
前頭　上ぢ　山
前頭　武ぢ　ちの
前頭　武ぢ　ちの
前頭　武ぢ　ちの

人名附物見立相撲

東

大関 関脇 小結 前頭 前頭 前頭

大坂京都名物合見立

大関　伯耆
関脇　今文
小結　信濃
前頭　名護屋
前頭　西ノ海
前頭　若狭
前頭　川ノ内
前頭　摂津
前頭　天満

十文字
日蔭
芝神明
砂糖屋
浮世絵
千貫
戎
瀬戸物
木綿
舟場
居舟

行司　宗市

大関　千日
関脇　神明
小結　物産
前頭　西ノ宮
前頭　二条
前頭　東寺
前頭　清水
前頭　三条
前頭　祇園
前頭　北山
前頭　東山
前頭　嵯峨

山科
初瀬
道明寺
千本
二軒茶屋
言問
九条
祇園
清水
牛頭
祭礼
太秦
石清水

堂島
大坂
軒端
物産
西ノ宮
羽二重

白川
石清水
糸の女
糸の女
石清水
かも川
茂川

勧進元
差添人

大佛
川ノ口
千日
千石船
大矢数

世話人

取頭

世話人

取頭